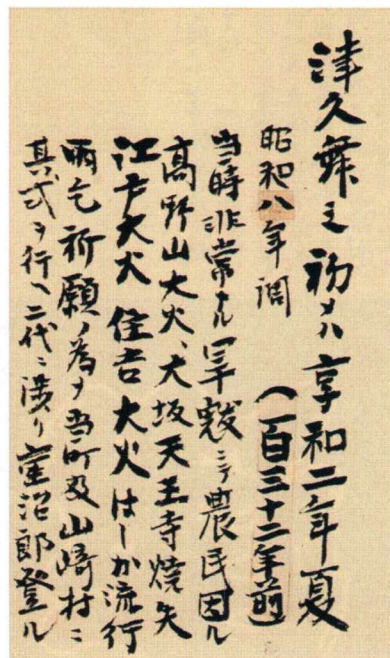


# 野田の津久舞(つくまい)

千葉県指定無形民俗文化財・国選択無形文化財



## 津久舞の初めは享和二年夏

昭和八年調べ (百三十二年前)  
 当時非常なる旱魃にて農民困る  
 高野山大火、大阪天王寺焼失  
 江戸大火、住吉大火、はしか流行  
 雨乞祈願のため当町及び山崎村にて  
 この式を行い二代に渡り重治郎登る

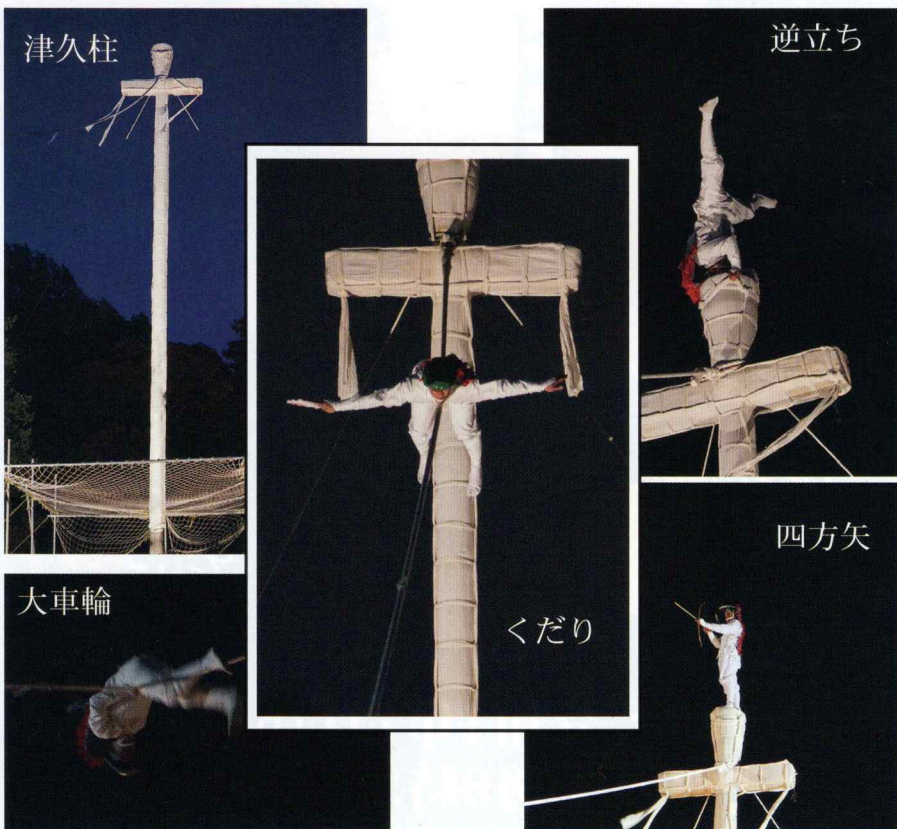
## 起源と現在

土地の古文書によれば、享和二年(一八〇二年)夏の旱魃のときに雨乞祈願のために行ったのが始まりとされる。  
 当時須賀神社は愛宕神社と併設されていたようだが、現在の地に須賀神社(下町地区)が移築された後、文政八年(一八二五年)須賀神社の祭礼に津久舞として奉納されるようになったと伝承。

### 現在の津久舞

毎年、七月中旬に行われる須賀神社の祭礼「三ヶ町夏祭り」の中で、津久舞が奉納される。  
 津久舞奉納までの一日の流れは、三ヶ町(上町・仲町・下町)への「底抜け山車」によるお触れ、当番町内で行われる式典、つく舞会場までのお練り、そして津久舞の披露となる。

津久舞は、津久柱(高さ十四、五m)の上で蛙の面をつけたジュウジロウさんと呼ばれる舞男が四方に破魔矢を射たのち龍をからかい怒らせて雨を降らせるという物語を演じる。  
 柱の中ほどでは反りを見せたり、柱上では、寝転がったり、逆立ちを行う。  
 この命がけの演技を須賀神社に奉納し雨を与えてもらうというこれを「野田の津久舞」と称します  
 このジュウジロウさんの舞に合わせて、柱の下の舞台や「底抜け山車」で津久年番の若衆と小若(小学生)が津久囃子の演奏をテンポ良く行う。  
 お囃子連が、お触れ・練り込み・会場と移動しながらの演奏に使用する「底抜け山車」津久舞にはなくてはならない用具です。



野田津久舞保存会  
 代表者 会長 石塚 秀一  
 事務局 野田市中野台168-1  
 野田商工会議所内

参考文献 野田の夏祭りと津久舞 野田郷土博物館刊行

<https://www.tukumai.com/>  
[mail:info@tukumai.com](mailto:info@tukumai.com) お問い合わせはメールにて

## 令和四年度三ヶ町夏祭り日程表

7月15日(金)	渡御式典	須賀神社	10:00	
	三ヶ町渡御	須賀神社	10:30	車両による天王神輿渡御
7月16日(土)	津久舞式典	千葉銀行駐車場	18:30	
	津久舞お練り	式典会場~	18:40	
	津久舞奉納	津久舞会場	19:00	時間30分程度の変更有り
※津久舞は30分位、時間が前後する場合があります早目のご来場をお願いします				
7月17日(日)	町内祭礼	各町内		各町内祭礼関係者に確認ください

新型コロナ感染症対策にご協力ください  
 体調不良の場合は来場を控えてください  
 発熱・咳・咽頭痛・味覚障害・頭痛等  
 来場の際は出来るだけ新型コロナワクチン3回接種済みであること  
 開催当日に緊急事態宣言や蔓延防止処置が発令された場合は無観客での開催となります  
 会場入り口でのアルコール消毒にご協力ください

駐車場のご用意はありません 野田市駅または愛宕駅近辺の有料駐車場をご利用ください

神輿年番：下町区 獅子年番：上町区 津久年番：仲町区 三ヶ町夏祭り実行委員会